平成 28 年度　ぎふグローバル人材育成推進モデル事業　　岐阜聖徳学園高等学校

ぎふグローバル　ニュース「Co-Work」48 号 H28/9/9

9 月 3 日（土）、先日 DIG 講習会をしていただいた岐阜県防災・減災センターの**防災士（NPO 日本防災士機構認定）、防災ボランティアコーディネーター　西田 重成さん**に再度来ていただいて、この学校周辺の鶉地域の住民や企業の方との「**DIG（Disaster Imagination Game　災害図上訓練）**」の講習会をして頂きました。

今回ご協力いただいた方々は鶉地区自治会長の堀江さんをはじめ、鶉小学校の教頭先生、PTA 会長さん、PTA の方とそのお子さん、岐阜聖徳学園大教育学部の専任講師・地学博士の森田先生とその学生さん、看護学部准教授の谷口先生と助手の谷脇先生、鶉女性の会副会長の堀江さんと鶉女性防火クラブ会長中平さん、日赤奉仕団の方々、いつもスクールバスでお世話になっている「ドライビングサービス」の西野常務取締役、鶉地区水防団の方々、合わせて約 30 名の皆さんに集まって頂きました。

一つのグループに高校生を中心として小学生から 70 代の方々まで様々な年代の方たち入り、鶉地区地図を用いて避難経路や危険箇所などについて意見を交わしました。地域の人しか知らないローカルな情報と、高校生の視点とエネルギーと、それぞれの年代ごとの視点や知恵を持ち寄り、活発な意見交換が交わされました。

災害シュミレーション

＊

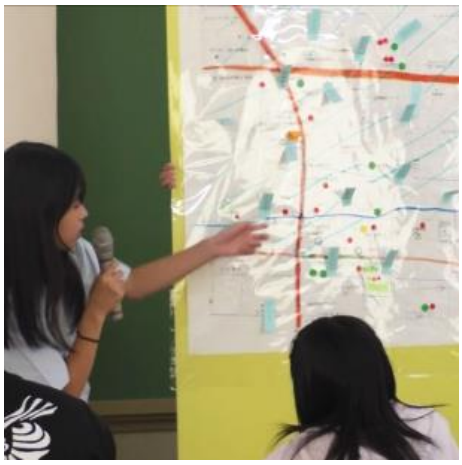
台風の接近により大雨警報が発令。学校から友人と 3 人で徒歩にて下校中に老夫婦から避難の支援をお願いされました。車いす利用の夫とその妻（共に 80 代）を安全な場所へ避難誘導してください。

上記の条件のもと、鶉地区の地図の真ん中あたりに要支援者の老夫婦が救助支援を求めているという設定で、避難場所へと誘導するルートとその方法をグループ毎に検討しました。要支援者が車いすであり、その妻も 80 歳を超える高齢であることなどの状況を考慮しながら、避難場所はどこにするか、そこへたどり着くためのルートをグループ毎に話し合って決めていきます。

最後に各班それぞれに発表してもらいました。各班ごとに避難場所やルートが異なり、それぞれに理由があり、改めて気づきや考えさせられる点、学ぶところがありました。また、避難する際に周りの住民にも声掛けしたり、手助けしたりなど、周囲を気遣いながら避難するという意見も出ていました。

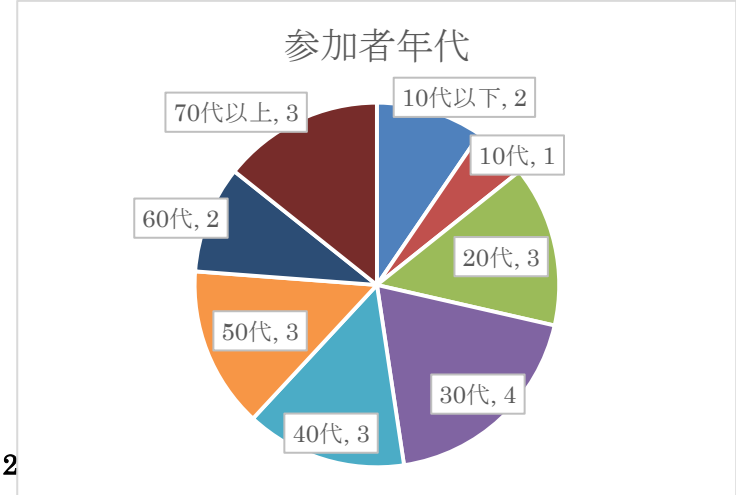
その後、鵜地区水防団の方々にご協力いただいて土嚢つくり体験をしました。学校の砂場で土嚢袋に砂を詰め、それを積み上げる方法を教えてもらいました。

水防団長の堀江さんは、「水害の際、この土嚢づくりや積み上げ体験が、何より被害を抑えるのに役に立つ」とおっしゃり、高校生の災害時の活躍を期待されていました。
高校生も、水防団の方の指示のもと一生懸命取り組んでいました。みなさん、暑い中、お疲れさまでした。

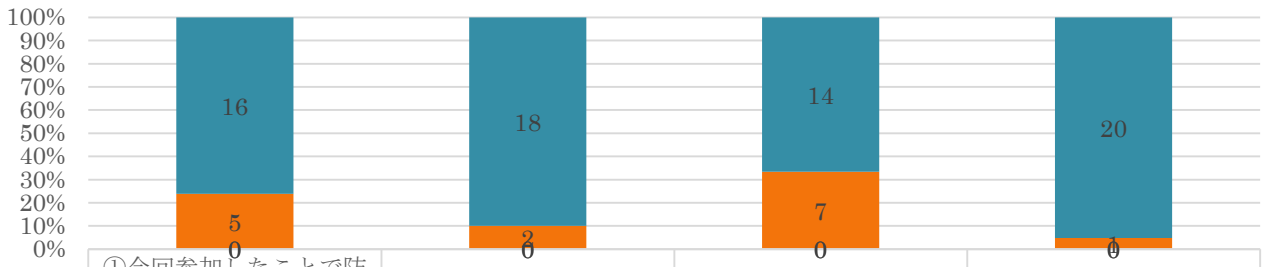


参加して頂いた地域の方へのアンケート

参加して頂いた地域の方々へ、今回の地域防災の参加したことに対するアンケートを取らせていただきました。右グラフは参加者の年代比率です。



10 代以下から 70 代以上までまんべんなく集まって頂き、各年代ごとの意見を頂くことができました。



	①今回参加したことで防災に対する理解が深まりましたか？ １とても深まった、２まずまず深まった、３あまり深まらなかった、４深まらなかった	②楽しかったですか？ １楽しかった、２まずまず楽しかった、３あまり楽しくなかった、４楽しくなかった	③高校生とコミュニケーションとれましたか？ １とれた、２まずまずとれた、３あまりとれなかった、４とれなかった	④高校生とコミュニケーションをとることで防災に関してメリットがあると思いますか？ １ある、２多少ある、３あまりない、４ない
1	16	18	14	20
2	5	2	7	1
3	0	0	0	0
4	0	0	0	0

生徒の事後アンケートは、次回に！

①の理由

・高校生の防災に対する意識の高さを知ることが出来たのが一番大きかった。
・専門家の方のお話を伺うことが出来て、生徒さんと一緒に考える機会をありがとうございました
・異年齢の方々と DIG をやることでとても勉強になった
・年齢が 70 代に達して他人ごとではないと思っている。とても勉強になった
・わかっていてもこんなに身近に考えることがなかったのでとても参考になった
・各班での発表で違う視点が知れたから
・改めて地域の方々とのつながりが重要だと感じた

②の理由

・高校生と災害について意見を出し合ったり話を聞けてとても楽しかった。
・ゲーム感覚で線を描いたりシールを貼ったりできたから。楽しくわいわいできた
・鶉地区について行ったので真剣にコミュニケーションもとりながらできた
・様々な立場の意見を聞くことができたから
・高校生の方と触れ合えてとても良かった。高校生が一生懸命考えてくれるのに感動した

③の理由

・高校生は体力もあり防災で大いに役立つ人材と言えます。その高校生と会話することで協力/連携が図りやすくあると思う
・大人にはない視点をたくさん持っていることと、真剣さは大人より上
・高校生の若い力は災害時には頼もしい力になると思う
・確かに意味はあると思うが、まだまだ高校生は守られる側だと思うので自分の命を大切にしてほしい

・いざという時に以前からコミュニケーションを取っていれば役に立つと思う
・防災の意識を持ってもらえたこと
・高校生が自ら地域に目を向けてくれて感動しました

⑤その他意見や改善点など
・高校生との交流もなかなかできないことなのでよい経験になりました
・高校生が外国の人や高齢者を誘導するという言葉が出て、とてもすごい思ったし頼もしいと思う
・地域防災（学校・住民・企業）の受け皿として高校がこのようなイベントを開くことにはとても大きな意義があると思います
・とても役立つ経験をありがとうございました。自分でも知らないことが多く、反省する機会となりました
・これからも色々な災害についての勉強会、地域の交流が出来る会を設けて続けて頂けると良いと思います
・今後も同様の活動があれば参加したい